



CHAPTER 2

Cisco Digital Media Encoder 1100 入門

この章の構成は、次のとおりです。

- 「概要」 (P.2-1)
- 「基本操作：前面パネルの使用」 (P.2-4)
- 「高度な操作：Niagara SCX Web Interface の使用」 (P.2-11)
- 「My Cisco Digital Media Encoder 1100」 (P.2-37)
- 「Cisco Digital Media Encoder 1100 のアラート」 (P.2-41)
- 「アラートの表示」 (P.2-42)
- 「ネットワークのプロパティ」 (P.2-42)
- 「システム設定」 (P.2-45)

概要

ここでは次の内容について説明します。

- 「ストリーミング メディアとは」 (P.2-1)
- 「ストリーミングのインフラストラクチャ」 (P.2-2)
- 「ストリーミング オーディオ/ビデオのタイプに関する簡単なガイド」 (P.2-3)
- 「チュートリアル」 (P.2-3)

ストリーミング メディアとは

ストリーミング メディアとは、配信と消費（表示、視聴）が並行して行われるメディアです。ストリーミングとは、メディア自体というよりも、配信システムの特徴です。ストリーミングかどうかの区別が問題になるのは、通常、コンピュータ ネットワーク経由で配信されるメディアについてだけです。他の配信システムは、ほとんどが本来的にストリーミングであるか（ラジオ、テレビ、インターネットテレビ）、または本来的にストリーミングでないか（本、ビデオ カセット、オーディオ CD）のいずれかです。

Cisco Digital Media Encoder 1100 は、IP ネットワーク経由のオーディオ/ビデオ メディア配信に特化した製品です。

ストリーミングのインフラストラクチャ

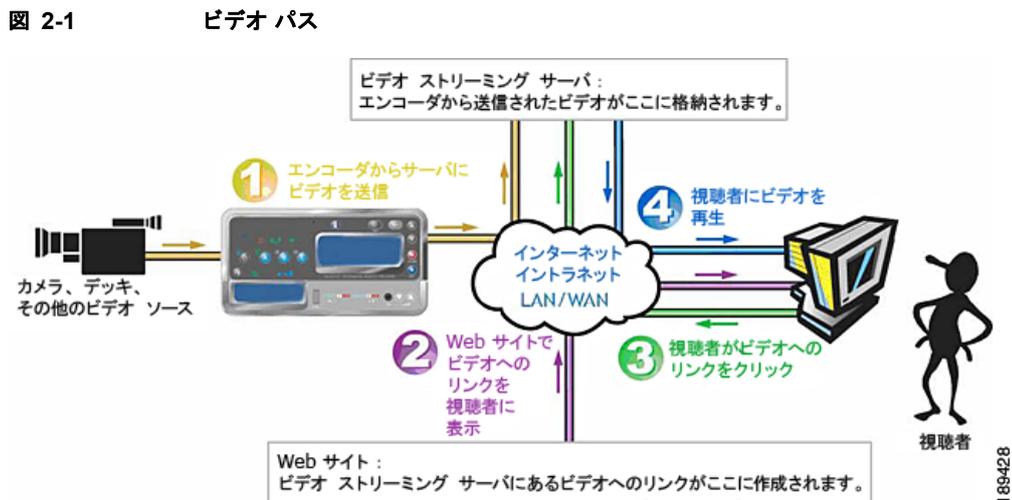
新しい Cisco Digital Media Encoder 1100 をセットアップする前に、ビデオ キャプチャからストリーミング ビデオの再生までの、ライブ ストリーミング ビデオの全体的な概要を説明します。

コンピュータ環境にビデオをキャプチャするアプリケーションは、DVD オーサリングからライブ Web キャスティングまで、数多く存在します。これらのアプリケーションは、ビデオの最終的な用途と関係なく、すべて次の 3 つのワークフロープロセスに分類できます。

- 単一ビデオ/セッション キャプチャ（非リアルタイム配信用の単発ファイル キャプチャ）
 - 通常、ファイルはキャプチャされた後、処理やオーサリングによってその最終配信形態に加工
- バッチ ビデオ/セッション キャプチャ（アーカイビング、スケジューリング、およびストレージ）
 - 複数ソースのコンテンツをデジタル化
 - 無人ソースを使用する場合は、デバイス制御が必要
 - 時間付きイベントをキャプチャするには、セッションをスケジューリングする能力が必要
- ライブ ビデオのキャプチャ、処理、および配信（Web キャスティング）
 - 単一ソースまたは複数ソースで使用可能
 - 特定の時刻のライブ イベント
 - リモート キャプチャまたはローカル キャプチャに使用可能
 - 最終コンテンツを利用者にリアルタイムで配信

各カテゴリには独自の要件があり、それによってもユーザ インターフェイスや、機能、使用感が異なります。Cisco Digital Media Encoder 1100 は、ライブ ビデオのキャプチャ、処理、配信に使用します。

図 2-1 は、カメラやビデオ プレーヤーなどのソースから、エンコーダ経由でサーバに送られ、さらに IP ネットワークを介してソフトウェア プレーヤーに配信されて、視聴者のモニタに表示されるまでのビデオ パスを示します。



ストリーミング オーディオ/ビデオのタイプに関する簡単なガイド

Cisco Digital Media Encoder 1100 は、複数の異なるタイプのオーディオ/ビデオ ストリームを作成できます。これらのタイプはすべて IP ビデオ形式ですが、各タイプに一定のプロパティが用意されており、ストリーミング ビデオの用途に合わせて微調整することができます。Cisco Digital Media Encoder 1100 は、低解像度のビデオ コンテンツを作成し、それをインターネット経由でストリーミングして、コンピュータやハンドヘルド モバイル デバイスで再生するという想定のもとで設計されています。

表 2-1 は、推奨されたアプリケーションを使用した場合に、Cisco Digital Media Encoder 1100 でサポートされるすべての形式を示します。これらの形式はすべて、多くの異なる用途に使用できます。

表 2-1 ストリーミングのための IP ビデオ圧縮

形式	説明
Windows Media®	インターネット ビデオおよびモバイル デバイスのストリーミング
RealVideo®/Helix®	インターネット ビデオおよびモバイル デバイスのストリーミング
MPEG-4	インターネット ビデオ、ハンドヘルド デバイスおよび携帯電話のストリーミング
Adobe® Flash® on-demand	インターネット ビデオのストリーミング

ニーズに応じた適切なストリーミング形式を選択するためには、まずコンテンツの配信先である視聴者について検討する必要があります。視聴者がコンテンツの再生に使用する最も一般的なプレーヤーは何か。これによって、視聴者向けに作成するストリーミングの形式が決まります。

コンテンツをストリーミングするデータ レートを決定するには、視聴者がアクセスできる IP 帯域幅を判断する必要があります。たとえば、視聴者のアクセス方式が、ISDN 接続以下の場合には、56kbps QCIF などの低データ レートによるビデオやオーディオのストリーミングが適切です。逆に、ケーブルモデムや DSL などを使用していて、アクセス帯域幅ははるかに大きい場合は、500kbps 以上の CIF 解像度で高品質のストリーミングを提供することができます。

Cisco Digital Media Encoder 1100 には、さまざまな帯域幅の接続に対応するエンコード プロファイルがあらかじめ設定されています。ロードされるプロファイルは、初期起動時のエンコーダの設定によって異なります。

チュートリアル

Cisco Digital Media Encoder 1100 の操作インターフェイスには、エンコーダの前面パネルにある液晶ディスプレイやボタンと、*Niagara SCX Web Interface* の 2 つがあります。したがって、このチュートリアルは、次の 2 部構成になっています。

1. 「基本操作：前面パネルの使用」(P.2-4)
2. 「高度な操作：Niagara SCX Web Interface の使用」(P.2-11)



(注) *Niagara SCX Web Interface* にアクセスするには、一般に使用されているブラウザがインストールされたコンピュータを、エンコーダとコンピュータの両方が存在するローカル ネットワーク経由で IP 接続するか、付属の RJ-45 ケーブルを使用して、エンコーダとコンピュータを直接 IP 接続する必要があります。

基本操作：前面パネルの使用



(注)

前面パネルのボタンについては、「[前面パネル図](#)」(P.1-7)を参照してください。

ここでは次の内容について説明します。

- 「[起動](#)」(P.2-4)
- 「[シャットダウン](#)」(P.2-5)
- 「[シャットダウン \(代替の手順\)](#)」(P.2-5)
- 「[エンコードセッションの開始](#)」(P.2-6)
- 「[CPU の使用状況の確認](#)」(P.2-7)
- 「[セッションの停止と終了](#)」(P.2-8)
- 「[外部ストレージデバイスへの接続](#)」(P.2-9)
- 「[キャプチャしたビデオファイルのエクスポート](#)」(P.2-9)
- 「[<アンマウント> ボタンの使用](#)」(P.2-10)

起動



(注)

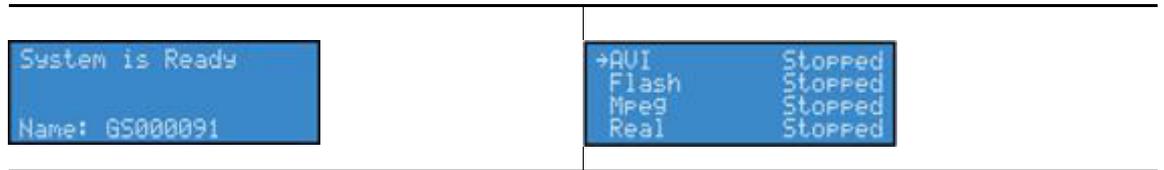
エンコーダを初めて起動する場合は、次に進む前に、「[初期セットアップの手順](#)」(P.1-8)を参照してください。

エンコーダを起動するには、前面パネルの <電源> ボタンを押します。

起動処理を行っている間、エンコーダの液晶ディスプレイに、次の一連のメッセージが表示されます。

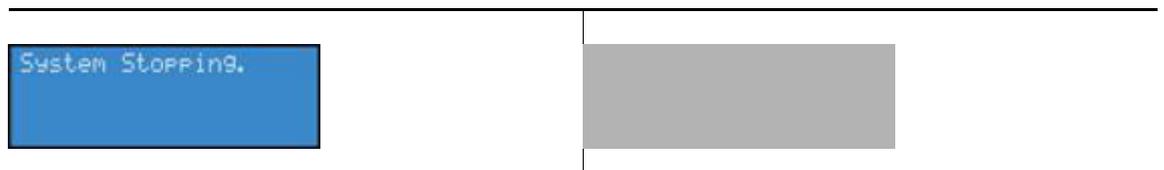
ViewCast Corporation Niagara 5.2.187.0 Serial: 655072117	Starting OS ..		Starting SCX
Starting System	System initializing Testing...	System initializing Loading Encoders...	

「System is Ready」というメッセージが表示され、操作の準備が整うと、エンコーダの液晶ディスプレイが、次の例のようなステータス表示に変わります。



シャットダウン

エンコーダをシャットダウンするには、前面パネルの<電源> ボタンを軽く押します。エンコーダの液晶ディスプレイに、次のメッセージが表示されます。



数秒後、エンコーダの電源が切断されます。

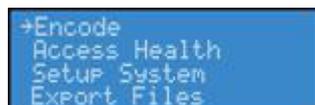


注意

エンコーダの電源のオフは、適切に行ってください。誤った方法でシステムをシャットダウンすると、データが破損することがあります。データが破損した場合、次のシステム起動時で、起動処理に数分間かかることがあります。

シャットダウン（代替の手順）

上の方法の代わりに、[EASE] メニューを使用してエンコーダをシャットダウンすることもできます。<メニュー> ボタンを押し、[EASE] メニューを表示します。

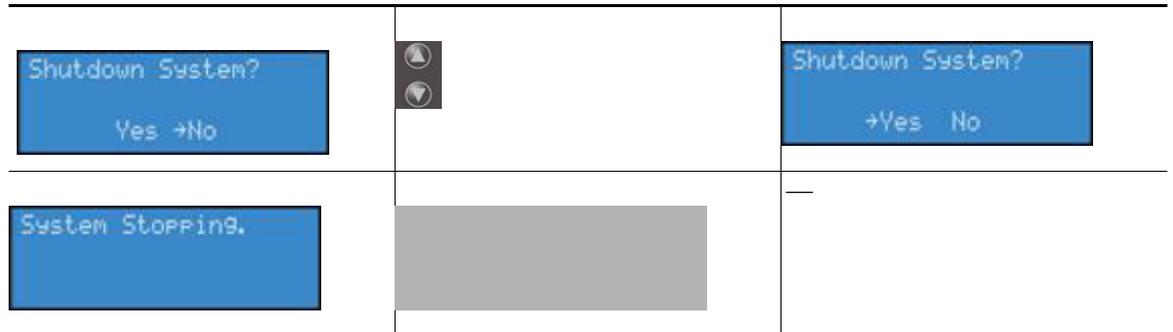


<上> と <下> の矢印を使用して、[Shutdown System] が表示されて選択されるまで下方向にスクロールします。



<ENTER> を押します。

次に、<上> と <下> のボタンを使用して、[Yes] または [No] のいずれかを選択して、システムのシャットダウンを確定します。<ENTER> を押します。

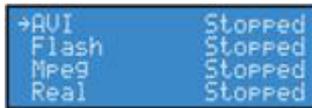


エンコードセッションの開始

エンコードセッションを開始するには、エンコーダの前面パネルで <STREAM> ボタンを押します。



エンコーダの液晶ディスプレイに、利用できるエンコーダ プロファイルとそれぞれの現在のステータスが一覧表示されます。



(注)

エンコーダ プロファイル名は、最初の 10 文字だけが表示されます。カスタム プロファイルに名前を指定する場合は、最初の 10 文字で他のプロファイルと区別できる固有な名前を指定してください。

<上> と <下> のボタンを使用して選択用の矢印を移動し、このエンコードセッションで使用するエンコーダ プロファイルを選択します。

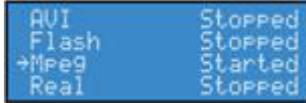


必要なエンコーダ プロファイルを選択したら、もう一度 <STREAM> ボタンを押し、エンコーダを開始します。

エンコーダの液晶表示ディスプレイに、エンコーダの開始処理を示すメッセージが表示されます。



エンコーダセッションが正常に開始されると、エンコーダの液晶ディスプレイが、利用可能なエンコーダのリストに戻ります。選択したエンコーダプロファイルがエンコードを開始したことが、この画面に表示されます。



エンコーダの S ビデオまたはコンポジットビデオ入力で、水平ビデオ同期が検出された場合、ビデオ検出ライトが点灯します。



開始したエンコーダが、EZStream の <A>、、<C> ボタンに割り当てられている場合、開始処理の間と終了後に、開始したエンコーダに対応するボタンが点滅した後点灯します。



この手順を繰り返すと、複数のエンコーダを同時に素早く開始できるようになります。

Cisco Digital Media Encoder 1100 は、単一チャンネルのエンコーダです。つまり、同時に接続してストリーミングできるオーディオ/ビデオソースは 1 つだけです。ただし、同じオーディオ/ビデオを複数のデータレートと複数の形式でストリーミングすることは可能です。これにより、さまざまな視聴者に対して最高のユーザエクスペリエンスを提供することができます。

たとえば Cisco Digital Media Encoder 1100 で、Windows Media をフル解像度、1500kbps でストリーミングし、同時に Adobe Flash を CIF 解像度、500kbps でストリーミングすることができます。



警告

同時にキャプチャできるストリームの数には上限があります。エンコーダが同時に処理できる能力を超えてストリームのキャプチャを試みると、ストリームのフレーム落ちのために、画像の動きに途切れが生じ、視聴者のエクスペリエンスが悪化します。この場合、セッション数を減らして CPU 負荷を軽減しなければ、警告なしにすべてのエンコードセッションが自己終了することがあります。

CPU の使用状況の確認

複数のストリームを開始できるので、エンコーダの処理能力をどの程度を使用しているかを把握することが非常に重要です。使用率が処理能力の 50% 未満の場合は、システムのパフォーマンスに悪影響を与えることなく、もう 1 つのエンコードセッションを開くことができます。

<メニュー> ボタンを押すと、エンコーダの液晶ディスプレイにメインメニューが表示されます。



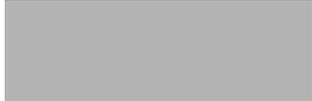
液晶ディスプレイに、次のメニュー項目が表示されます。



<上> と <下> のボタンを使用して [Access] メニュー項目の横に矢印を移動し、<ENTER> ボタンを押します。

```
Encode
→Access Health
Setup System
Export Files
```

液晶ディスプレイに、[Access] メニューのオプションが表示されます。[CPU] メニューを選択したまま、<ENTER> ボタンを押します。



エンコーダの液晶表示ディスプレイに、使用中の CPU サイクル量が表示されます。エンコーダがアイドル状態（エンコードセッションが実行されていない状態）の場合、CPU の使用率は 4% 未満と表示されます。1 つまたは複数のエンコードセッションが実行されている場合は、はるかに高い使用率が表示され、+/- 10% の範囲で推移します。

```
CPU in use
48%
PRESS ENTER
```

<ENTER> ボタンを押して、元のメニューに戻ります。



セッションの停止と終了

エンコーダを停止するには、<停止> ボタンを押します。



エンコーダの液晶ディスプレイに、エンコードセッションとそれぞれの現在のステータスが一覧表示されます。

<上> と <下> のボタンを使用して、終了するエンコードセッションにポインタを合わせます。

```
AUI Stopped
Flash Stopped
→Mpeg Started
Real Stopped
```

<停止> ボタンをもう一度押すと、選択したエンコードセッションが終了します。





メインメニューに戻るには、<メニュー> ボタンを押します。



外部ストレージ デバイスへの接続

Cisco Digital Media Encoder 1100 には、前面パネルと背面パネルにそれぞれ USB ポートがあります。これらのポートの片方または両方に、ほとんどの標準 USB フラッシュ ドライブを接続できます。これにより、エンコーダのローカル ストレージ ドライブに作成したあらゆる AV ファイルをエクスポートできます。*Niagara SCX Web Interface* の [Save to File] 設定を使用する場合、ローカル ストレージ ドライブは D ドライブです。

Cisco Digital Media Encoder 1100 のいずれかの USB ポートに USB フラッシュ ドライブを挿入すると、エンコーダがそのリムーバブル ストレージ デバイスを自動的に検出し、ランダムにドライブ文字を割り当てます。このデバイスには、ファイルを直接取り込むことも、エンコーダの前面パネルのメニューから [Export File] 機能を使用することもできます。

キャプチャしたビデオ ファイルのエクスポート

キャプチャしたビデオ ファイルを外部 USB ドライブにエクスポートすることができます。

<メニュー> ボタンを押して、エンコーダ メニューにアクセスします。



<上> と <下> の矢印ボタンを使用して、[Export Files] オプションを強調表示し、<ENTER> ボタンを押します。



次に、[To USB Drive] オプションを選択し、<ENTER> ボタンを押します。



エクスポート先のドライブの選択を求める画面が表示され、エンコーダに接続されているアクティブな USB ドライブのリストがあわせて表示されます。



```
Select Destination
```



```
→G:drivename1
I:drivename2
```

エクスポート先の USB ドライブを選択し、<ENTER> を押します。

エンコーダがファイルのエクスポートを完了したら、このデバイスを取り外すことができます。



```
Please wait
Exporting...
Do NOT remove
device
```



```
Success Exporting
```

<アンマウント> ボタンの使用

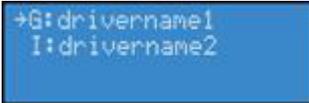
下に示す<アンマウント> ボタンは、エンコーダの左下にあり、エンコーダから USB デバイスをアンマウント（エンコーダによる USB デバイスの操作を終了）することができます。



最初に<アンマウント> ボタンを押すと、次の 2 つの画面が表示されます。2 番目の画面で<上> と<下> のボタンを使用して、終了する USB ドライブセッションにポインタを合わせます。



```
Select USB Device
Enter to unmount.
```

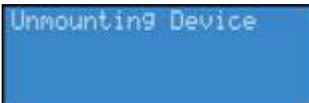


```
→G:drivename1
I:drivename2
```

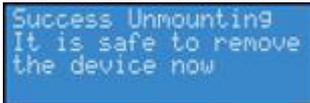
エクスポートする USB ドライブを選択し、<ENTER> ボタンを押します。



選択した USB セッションが終了し、次の画面が表示されます。



```
Unmounting Device
```



```
Success Unmounting
It is safe to remove
the device now
```

エンコーダのディスプレイが、システム情報を順に表示する画面に戻ります。

USB ドライブのアンマウントを行わずに終了する場合、上の [Unmounting Device] 画面が表示されたところで、<メニュー> ボタンを押します。このシナリオでは、<メニュー> ボタンを押すことで、現在のアンマウントセッションが中断されます。



<メニュー> ボタンを押すと、セッションがアンマウントを中断処理中であることを示す「Aborting unmounting」というメッセージが表示されます。



システム情報を順に表示する画面に戻った後、USB デバイスを安全に取り外せます。



(注)

エンコーダに USB デバイスがマウントされていないときに、誤って<アンマウント> ボタンを押した場合、次の画面が表示されます。



```
Select USB Device
Enter to unmount
```



```
No USB Devices Found
```

この「No USB Devices Found」というメッセージは、<メニュー> ボタンを押すまで表示されたままになります。つまり、この場合も<メニュー> ボタンによって、現在のアンマウントセッションが中断されます。次の画面が表示された後、システム情報を順に表示する画面が再度表示されます。



警告

USB デバイスをアンマウントせずに取り外すと、データの損失や破損が生じることがあります。USB デバイスを取り外す前に、必ず上の手順を実行してください。

高度な操作 : Niagara SCX Web Interface の使用

ここでは次の内容について説明します。

- 「Web インターフェイスへのアクセス」 (P.2-12)
- 「エンコードセッションの開始」 (P.2-13)
- 「セッションの停止と終了」 (P.2-14)
- 「アクティビティ ログの表示」 (P.2-16)
- 「EZStream ボタンの設定」 (P.2-16)
- 「エンコーダ プロファイルの編集」 (P.2-22)
- 「エンコーダ プロファイルの削除」 (P.2-37)

Web インターフェイスへのアクセス

Niagara SCX Web Interface は、ソフトウェアをインストールする必要がなく、一般的なブラウザを搭載した Microsoft® Windows®、Macintosh、および Linux® マシンなどのあらゆるコンピュータで動作します。Cisco Digital Media Encoder 1100 システムは、そのコンピュータが含まれている共有 IP ネットワーク上に置くか、イーサネット ケーブル (RJ-45) を使用して、Windows に直接接続する必要があります。

Niagara SCX Web Interface にアクセスするには、コンピュータ上でブラウザを開き、エンコーダのマシン名を入力して Web インターフェイスにアクセスします。エンコーダのネットワーク名は、そのシリアル番号を兼ねており、開始プロセス時に液晶ディスプレイで確認することができます。

エンコーダがすでに開始されている場合は、システムのアイドル時に、液晶ディスプレイで確認することができます。

その際、エンコーダの液晶ディスプレイには、次の例のような 2 つの画面が交互に表示されます。

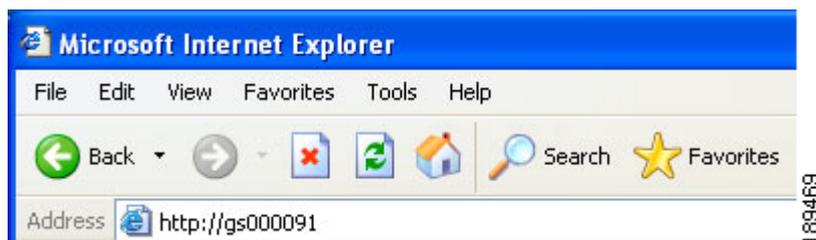
```
System is Ready
Name: GS000091
```

```
→RUI      Stopped
Flash     Stopped
Mpeg      Stopped
Real      Stopped
```

[System is Ready] ウィンドウにマシン名がすぐに表示されない場合は、<上> と <下> の矢印ボタンを押して、名前が表示されるようにシステム情報を切り替えます。

シリアル番号はまた、エンコーダの底面にも表示されています。

次の図に示すように、ブラウザにエンコーダ名を入力し、**Enter** キーを押します。



ユーザ名とパスワードの入力を求めるログイン画面が表示されます。デフォルトで、ユーザ名とパスワードはいずれも **admin** です。



ログインすると、エンコーダの操作、管理、およびシステム設定ツールなど、すべての Web 対応機能が利用できます。

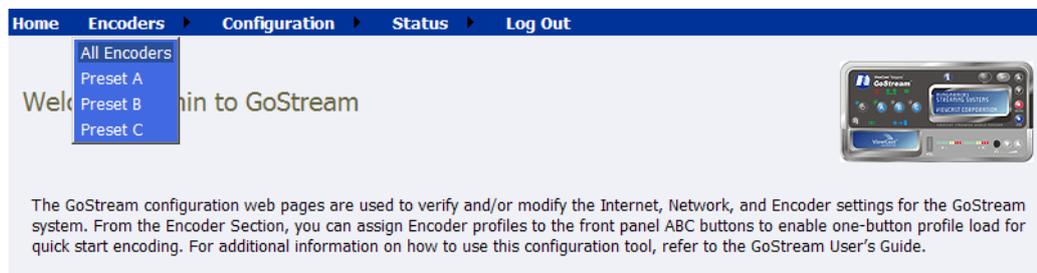


(注)

マシン名を使用してもエンコーダをブラウズできない場合は、代わりにエンコーダの IP アドレスを入力します。この情報も、システムのアイドル時に、[System is Ready] ウィンドウで確認できます。

エンコードセッションの開始

エンコードセッションを開始するには、マウスポインタをメニューバーの [Encoders] に合わせ、ドロップダウンメニューの [All Encoders] をクリックします。



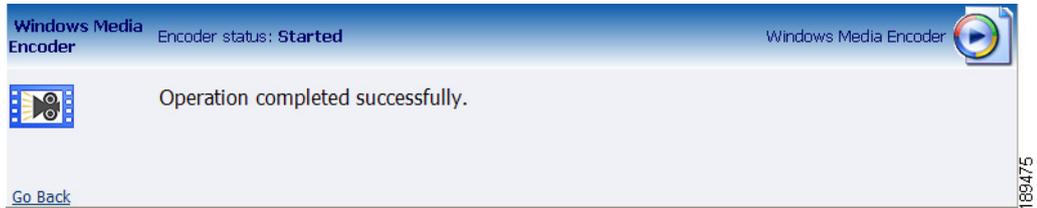
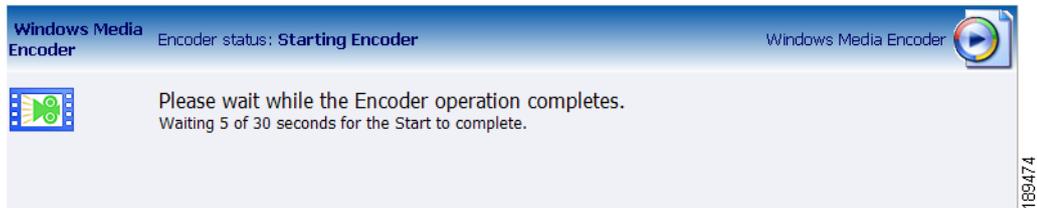
エンコーダにロードされているすべてのエンコーダプロファイルに加え、それぞれの形式と現在のステータスが一覧表示されます。



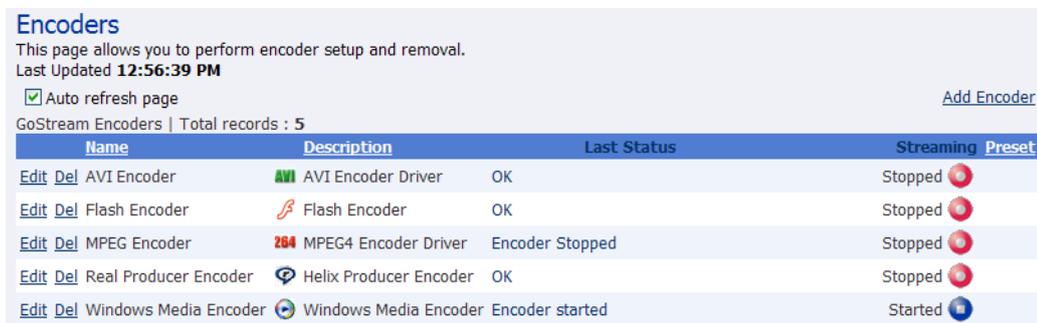
開始するエンコーダの右側の列に表示されている赤いストリームアイコンをクリックします。



Web ページが自動的に更新され、エンコーダの開始処理を詳細に示すメッセージが表示されます。

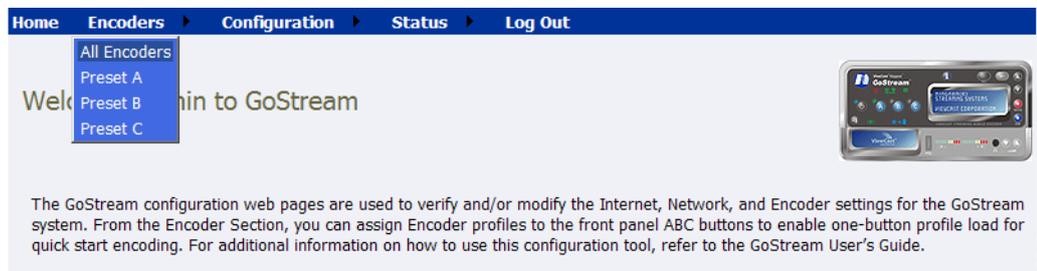


エンコーダが正常に開始すると、Web ページが [All Encoders] ページに戻り、エンコーダが開始したことを反映して、ステータスが [Started] モードに更新されます。



セッションの停止と終了

[All Encoders] ページが表示されていない場合は、メニューバーの [Encoders] にマウスを合わせ、ドロップダウンメニューの [All Encoders] をクリックします。



これにより、次の例のような Web ページが表示されます。

Encoders
This page allows you to perform encoder setup and removal.
Last Updated **12:56:39 PM**
 Auto refresh page [Add Encoder](#)

GoStream Encoders | Total records : 5

Name	Description	Last Status	Streaming	Preset
Edit Del AVI Encoder	AVI Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Flash Encoder	Flash Encoder	OK	Stopped	
Edit Del MPEG Encoder	MPEG4 Encoder Driver	Encoder Stopped	Stopped	
Edit Del Real Producer Encoder	Helix Producer Encoder	OK	Stopped	
Edit Del Windows Media Encoder	Windows Media Encoder	Encoder started	Started	

停止するエンコーダの右側の列で、ストリーミング中のエンコーダを示す青いアイコンをクリックします。

Streaming Preset

Stopped

Stopped

Stopped

Started

Web ページが自動的に更新され、エンコーダの停止処理を詳細に示すメッセージが表示されます。

CIF_WM_500K Encoder status: **Stopping Encoder** Windows Media Encoder

Please wait while the Encoder operation completes.
Waiting 5 of 30 seconds for the Stop to complete.

CIF_W_500K Encoder status: **Stopped** Windows Media Encoder

Operation completed successfully.

[Go Back](#)

エンコーダが正常に停止すると、Web ページが [All Encoders] ページに戻り、エンコーダが停止したことを反映して、ステータスが [Stopped] モードに更新されます。

Encoders
This page allows you to perform encoder setup and removal.
 Auto refresh page [Add Encoder](#)

GoStream Encoders | Total records : 5

Name	Description	Last Status	Streaming	Preset
Edit Del AVI Encoder	AVI Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Flash Encoder	Flash Encoder	OK	Stopped	
Edit Del MPEG Encoder	MPEG4 Encoder Driver	Encoder Stopped	Stopped	
Edit Del Real Producer Encoder	Helix Producer Encoder	OK	Stopped	
Edit Del Windows Media Encoder	Windows Media Encoder	Stopped	Stopped	

アクティビティ ログの表示

アクティビティ ログは、エンコーダの開始と停止の各イベントを記録します。アクティビティ ログを表示するには、マウス ポインタをメニューバーの [Status] に合わせ、ドロップダウン メニューの [Activity Log] をクリックします。

ログはエンコーダのすべてのイベントに対して更新されます。現在、ログには、「エンコードセッションの開始」(P.2-13) から「セッションの停止と終了」(P.2-14) までの開始と停止の各イベントが記録されています。



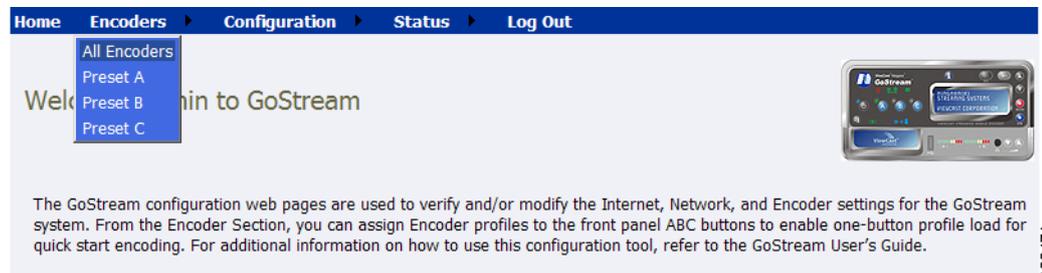
Created	Type	Description
10/31/2007 1:38:20 PM	General	Windows Media Encoder Stopped
10/31/2007 1:38:20 PM	General	Encoder Stopped Encoder Windows Media Encoder Stopped
10/31/2007 1:38:18 PM	General	Windows Media Encoder Stopping
10/31/2007 1:18:40 PM	General	Windows Media Encoder Started
10/31/2007 1:18:40 PM	General	Encoder Started Encoder Windows Media Encoder Started
10/31/2007 1:18:39 PM	General	Windows Media Encoder Starting

各イベントには、日付と時刻が記録されています。右上の [Clear Activity Log] ボタンをクリックすると、ログに記録されているすべてのアクティビティがクリアされます。

EZStream ボタンの設定

システムの前面パネルにある **EZStream** ボタンを使用すると、ボタンを 1 回押すだけでストリーミングが開始します。デフォルトで、これらのボタンは、エンコーダに割り当てられていません。それぞれのボタンを特定のエンコーダに対応させるには、*Niagara SCX Web Interface* を使用します。

マウス ポインタをメニューバーの [Encoders] に合わせ、ドロップダウン メニューの [Preset A] をクリックします。



EZStream の <A> ボタンの設定ページが表示されます。このページには、エンコーダの前面パネルのグラフィック表示が用意されています。グラフィック表示の <A> ボタンが強調表示され、これに対応する **EZStream** ボタンにエンコーダを割り当てようとしていることが示されます。

Encoder Preset A

This page allows setting the GoStream Encoder Presets. A preset is a quick way to select a specific Encoder. There are three presets on the front panel A, B and C. Click on the **A**, **B** or **C** buttons below or select from the menu to switch between each preset.

When an Encoder is assigned to a preset button, pressing the button on the GoStream panel will allow for quick easy starting or stopping of the encoder. Select an Encoder for the preset or select 'None' to deactivate the GoStream preset button. When no encoder assignment is made, pressing the GoStream button will show a message reminding you that no Encoder has been defined.

Select Encoder:

[View All Encoders](#)

[Select Encoder] の横にあるドロップダウン リストをクリックします。これにより、システム上で利用可能なすべてのエンコーダのリストが表示されます。

割り当てるエンコーダを選択し、[Submit] ボタンをクリックします。

Web ページでプリセット A が更新され、「Encoder Preset: A updated successfully」というメッセージが表示されます。

次の図に示すように、エンコーダ グラフィックで および <C> のボタンをクリックして、**EZStream** ボタンにエンコーダを割り当てることができます。

Select Encoder:

<A>、、<C> の各ボタンにエンコーダを割り当てると、それを反映して [All Encoders] ページの [Presets] 列が更新されます。

Encoders

This page allows you to perform encoder setup and removal.

Auto refresh page [Add Encoder](#)

GoStream Encoders | Total records : 5

Name	Description	Last Status	Streaming	Preset
Edit Del AVI Encoder	AVI Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Flash Encoder	Flash Encoder	OK	Stopped	
Edit Del MPEG Encoder	MPEG4 Encoder Driver	Encoder Stopped	Stopped	C
Edit Del Real Producer Encoder	Helix Producer Encoder	OK	Stopped	B
Edit Del Windows Media Encoder	Windows Media Encoder	Stopped	Stopped	A



(注)

同じエンコーダを 2 つの **EZStream** ボタンに同時に割り当てることはできません。エンコーダがすでに 1 つのボタンに割り当てられているときに、同じエンコーダを別のボタンに割り当てると、先の割り当てがエンコーダによって解除され、最新の設定だけがイネーブルになります。

次では、各エンコード形式のプロパティ ページの例を示します。エンコーダのタイプ別の設定方法については、「エンコーダ プロファイルの編集」(P.2-22) を参照してください。

- 「AVI エンコーダのプロパティ」(P.2-18)
- 「Flash エンコーダのプロパティ」(P.2-19)
- 「MPEG-4 エンコーダのプロパティ」(P.2-20)
- 「Real エンコーダのプロパティ (Helix)」(P.2-21)
- 「Windows Media エンコーダのプロパティ」(P.2-22)

AVI エンコーダのプロパティ

The screenshot displays the 'Encoder Properties' configuration page for an AVI encoder. The interface includes a navigation bar at the top with 'Home', 'Encoders', 'Configuration', 'Status', and 'Log Out'. The main content area is divided into several sections:

- Name:** AVI
- Auto Start:**
- Status:** Stopped (indicated by a red stop sign)
- AVI Encoder Driver:** AVI

The configuration is organized into three main columns:

- Video Settings:**
 - Source: GoStream Video Device 1.1
 - Input: Composite
 - Signal: NTSC_M
 - Proportions: Standard
 - Size: CIF 320x240
 - Format: YUY2
- Audio Settings:**
 - Source: GoStream Audio Device 1
 - Input: Unbalanced
- Preset:** (Empty)

Below these settings are two additional sections:

- Streaming to a File:**
 - Save to file
 - File Name: default folder
 - D:\AVFiles\capture.avi
- Advanced Streaming Settings:**
 - SimulStream:**
 - Enable SimulStream
 - Enable multiple instances for each filter
 - Show 5 filters per device.
 - Deinterlace:** Type: Motion Adaptive
 - Motion Threshold:**
 - Smooth Sharp
 - Value: 16

At the bottom of the page, there are links for 'All Encoders', 'Delete Encoder', and a 'Submit' button. The footer contains the copyright notice: © 2008 ViewCast Corporation. All Rights Reserved.

Flash エンコーダのプロパティ

Encoder Properties

Name: Auto Start Stopped 

Video Settings	Audio Settings	Preset
<input checked="" type="checkbox"/> Source: <input type="text" value="Osprey-230 Video Device 1.2"/>	<input checked="" type="checkbox"/> Source: <input type="text" value="Osprey-230 Audio Device 1"/>	
Input: <input type="text" value="Composite"/>	Input: <input type="text" value="Unbalanced"/>	
Signal: <input type="text" value="NTSC_M"/>		
Proportions: <input type="text" value="Standard"/>		
Size: <input type="text" value="320x240"/>		
Advanced Flash Video Settings	Advanced Flash Audio Settings	
Frame Rate: <input type="text" value="29.97"/> fps	Format: <input type="text" value="44.100 kHz, 16 bit, Stereo"/>	
Bitrate: <input type="text" value="768"/> kbps	Bitrate: <input type="text" value="128"/> kbps	

Streaming to a File	Advanced Streaming Settings	
<input checked="" type="checkbox"/> Save to file	SimulStream	
File Name: <input type="text" value="default folder"/>	<input checked="" type="checkbox"/> Enable SimulStream	
<input type="text" value="D:\AVFiles\Out\capture.flv"/> ...	<input type="checkbox"/> Enable multiple instances for each filter	
	Show <input type="text" value="5"/> filters per device.	
	Deinterlace	Motion Threshold
	Type: <input type="text" value="Motion Adaptive"/>	<input checked="" type="radio"/> Smooth <input type="radio"/> Sharp
		Value: <input type="text" value="16"/>

[All Encoders](#) [Delete Encoder](#)

MPEG-4 エンコーダのプロパティ

Encoder Properties

Name:
 Auto Start
Stopped ●
MPEG4 Encoder Driver H.264

Video Settings <input checked="" type="checkbox"/> Source: GoStream Video Device 1.5 Input: Composite Signal: NTSC_M Proportions: Standard Size: CIF 320x240 Format: YUY2 Advanced MPEG Video Settings MPEG Type: H264 - MP4 Encoder Quality: Real-time Frame Rate: 29.97 Bitrate (kbps): 768 <input type="checkbox"/> Enable B-frames	Audio Settings <input checked="" type="checkbox"/> Source: GoStream Audio Device 1 Input: Unbalanced Advanced MPEG Audio Settings Audio Format: 44.100 kHz, 16 bit, Stere Audio Type: Low Complexity Audio Encoder: AAC Bitrate: 128
--	---

[Bottom](#)

Streaming Properties <input type="checkbox"/> Enable Streaming Destination IP: 239.1.1.1 Callback IP: 10.10.10.108 Video Port: 5050 Audio Port: 5052 Time to Live: 30 Stream Info: Stream Info Here. Stream Title: Streaming Server SDP File: c:\capture.sdp	Advanced Streaming Settings SimulStream <input checked="" type="checkbox"/> Enable SimulStream <input type="checkbox"/> Enable multiple instances for each filter Show 5 filters per device. Deinterlace Type: Motion Adaptive Motion Threshold <input checked="" type="radio"/> Smooth <input type="radio"/> Sharp Value: 16
--	--

Streaming to a File
 Save to file
 File Name: default folder

Portable Media
 Enable Saving
 Media Title: Title

[All Encoders](#) [Delete Encoder](#)

[Top](#)

189487

Real エンコーダのプロパティ (Helix)

Encoder Properties
?

Name: Auto Start Stopped ● Helix Producer Encoder

Video Settings

Source: GoStream Video Device 1.5

Input: Composite

Signal: NTSC_M

Proportions: Standard

Size: CIF 320x240

Audio Settings

Source: GoStream Audio Device 1

Input: Unbalanced

Preset

[Bottom](#)

Streaming Properties

Real Streaming properties

Enable Streaming

Broadcast Method: Legacy Push (ver 8.x, 7.x, G2)

Transport: UDP TCP

Server Address:

Port/Port Range: -

Multicast Address:

Listen Address:

Stream Name:

Path(optional):

User Name:

Password:

Frame Rate:

Video Quality: Normal Motion Video

Audio Content: Voice Only

Video Noise Filter: Off

De-Interlace filter

Inverse Telecine

Advanced Streaming Settings

Enable SureStream

Audience Selection

128k Dual ISDN

12k Substream for 28k Dial-up

150k LAN

16k Substream for 28k Dial-up

1M Download (VBR)

1M Multichannel (VBR)

56k Dial-up

5M Download (VBR)

5M Multichannel (VBR)

5M Surround Stereo (VBR)

64k Single ISDN

750k Download (VBR)

Select all [Unselect all](#)

SimulStream

Enable SimulStream

Enable multiple instances for each filter

Show filters per device.

Deinterlace

Type: Motion Adaptive

Motion Threshold

Smooth Sharp

Value:

Streaming to a File

Save to file

File Name:

[All Encoders](#)
[Delete Encoder](#)

[Top](#)

© 2008 ViewCast Corporation. All Rights Reserved. 189488

Windows Media エンコーダのプロパティ

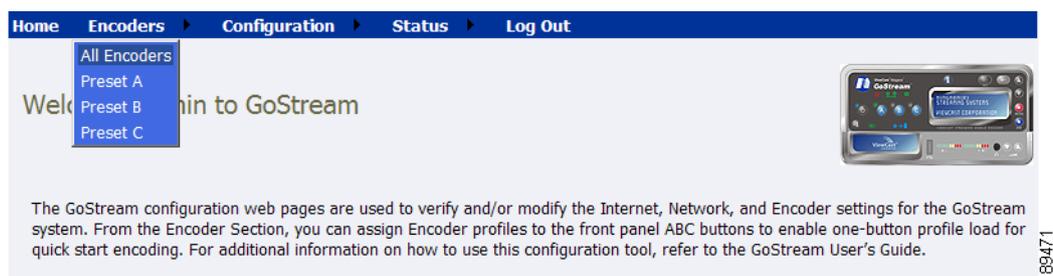


エンコーダ プロファイルの編集

新しいエンコーダを作成すると、新しいプロファイルを、特定のエンコーダ設定や要件に合わせて編集するかどうかを確認するメッセージが表示されます。また、Cisco Digital Media Encoder 1100 がデフォルトで提供する既存のエンコーダ プロファイルを編集することもできます。新しいエンコーダまたは既存のエンコーダを編集するプロパティ ウィンドウは、同じ形式です。

エンコーダの追加手順を実行した場合は、[Encoder Properties] ページが表示されます。

そうでない場合は、既存のエンコーダプロファイルを編集できます。[All Encoders] 画面に移動します。



プロパティを変更するエンコーダの [Edit] リンクをクリックします。



そのエンコーダのプロパティ ページが表示されます。

ビデオとオーディオの設定

エンコーダタイプに関係なく、すべてのタイプに対し、オーディオとビデオのプロパティを設定する必要があります。これらの値は、AVI と MPEG-4 で色空間の設定が追加されている以外、すべてのエンコーダタイプに共通です。

ビデオやオーディオのオン/オフの切り替えは、[Source] の横のチェック ボックスをクリックします。チェック ボックスをオンにすると、[Source]、[Input]、[Signal]、[Proportions]、[Size]、[Format]、および [Input] の各フィールドが編集可能になります。



Cisco Digital Media Encoder 1100 は、単一チャンネルのエンコーダなので、同時にキャプチャできるのは、1 つのオーディオ/ビデオ ソースですが、同じビデオ ソースから同時に複数のストリーミング形式や解像度をキャプチャすることは可能です。これを実現するには、そのビデオ ソースが、小数点以下の値で区別される複数の入力として認識される必要があります。これらは次の例のように表示されます。



警告

[Proportion] と [Size] の設定が同一のすべてのエンコーダは、ビデオとオーディオのソースも必ず同一の設定を使用してください。たとえば、[Proportion] が [Standard]、[Size] が [CIF] のすべてのエンコーダ キャプチャを Video Device 1.1 に、[Proportion] が [Standard] だが [Size] が [QCIF] のエンコーダ キャプチャを Video Device 1.2 に設定します。

ビデオとオーディオの [Input] には、いずれもエンコーダの背面で、ビデオとオーディオのソースの接続に使用しているコネクタを設定します。ビデオ入力、[Component]、[Composite]、[S-Video] のいずれか、オーディオ入力は、[Balanced] か [Unbalanced] です。

初期セットアップ時に、ビデオ信号を NTSC か PAL に設定します。[Signal] フィールドには、さらに地域に応じて、NTSC、PAL、および SECAM の別を追加します。適用される設定が不明な場合、エンコーダ ハードウェアを接続したビデオ ソースのオーナーズ マニュアルを参照してください。

[Proportions] 設定で使用する用語で、[Standard] は VGA モニタ用の正方形のピクセルを意味し、[CCIR-601] は TV モニタ用の長方形のピクセルを意味します。コンテンツが表示されるディスプレイのタイプに応じて、設定を選択します。たとえば、インターネット経由でストリーミングされ、コンピュータ モニタで表示される場合は、[Standard] を選択します。設定の選択が誤っている場合は、ストリーミング ビデオにひずみが生じます。

[Size] フィールドは、エンコードされたビデオのピクセル サイズを指します。標準サイズは次のとおりです。

- [Full] : フル画面ビデオ用
- [CIF] : フルサイズから 1/4 サイズに縮小されたビデオ用
- [QCIF] : フルサイズから、CIF サイズの 1/4 に縮小されたビデオ用

また、複数の特定サイズに使用が限られる Flash を除き、ビデオに対してカスタムのサイズを指定することもできます。モバイル ビデオ デバイスで再生するビデオをキャプチャするには、標準外のサイズを指定して互換性を確保する必要がありますので、これはそのような場合に便利です。

Flash 以外のすべてのエンコーダでは、ドロップダウン メニューから [Custom] を選択すると、キャプチャ後のビデオの正確なサイズを入力するための 2 つの追加フィールドが表示されます。



(注)

設定したビデオサイズとソース ビデオの色空間に互換がない場合、[Submit] をクリックすると、[Size] の値が、互換性を保てる最も近い設定に自動的に修正されます。色空間形式の設定が使用可能なのは、[AVI] と [MPEG-4] のエンコーダ プロパティだけで、[Size] 設定の下追加フィールドとして表示されます (下記を参照)。

The screenshot shows the 'Video Settings' section of a web interface. It contains several dropdown menus: 'Source' is set to 'GoStream Video Device 1.5', 'Input' is 'Composite', 'Signal' is 'NTSC_M', 'Proportions' is 'Standard', 'Size' is 'CIF 320x240', and 'Format' is 'YUY2'. A small ID number '189493' is visible on the right side of the form.

これですべてのビデオとオーディオの設定が完了しました。次に、ページの下部のエンコーダ タイプの設定に進みます。前述のように、これらの設定は、エンコーダ タイプによって異なります。

AVI エンコーダ設定

AVI は、非圧縮のオーディオ/ビデオ ストレージ形式なので、ファイルに**保存**する機能だけが搭載されています。生成する AVI ファイルに対して固有の名前を入力し、格納場所のディレクトリ パスを変更します。[Default Folder] リンクをクリックすると、エンコーダ上にあるファイル ストレージのデフォルト フォルダのパスが挿入されます。このパスは、デフォルトで `d:\AVFILES\` です。

The screenshot shows the 'Streaming to a File' section. The 'Output to file' checkbox is checked. The 'File Name' field contains the text 'D:\AVFiles\CIF_AVI.avi'. To the right of the field is a 'default folder' link. A small ID number '189494' is visible on the right side of the form.



(注)

エンコーダ上の他のディレクトリに、ファイルを格納することはお勧めできません。

エンコーダの内部ハードドライブにファイルを保存した後、USB ドライブやネットワーク ドライブなど、他の外部ストレージ デバイスにそれを移動してバックアップすることをお勧めします。

設定を入力後、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、変更内容を保存します。



警告

[Submit] をクリックせずに、現在のページから別の Web ページに移動すると、変更内容が失われます。

Flash エンコーダの設定

エンコーダ設定の Web インターフェイス

Cisco Digital Media Encoder 1100 には、ファイルにストリーミングするための Adobe Flash 機能が搭載されています。*Niagara SCX Web Interface* には、ファイルベースのライブストリーミングのためのオプション設定が用意されています。

次の図は、*Niagara SCX Web Interface* でエンコーダ作成後に表示される画面を示します。

オーディオ/ビデオをファイルに保存するための Flash エンコーダの設定は、AVI での設定と同じです。ファイルへのストリーミングをイネーブルにするには、[Save to File] ボックスがオンであることを確認します。Flash では、その他に、フレームやビット レートの制御が可能です。フレーム レートを変更すると、ビデオをエンコードする際のフレーム/秒が変更されます。オーディオの [Format] 設定は、オーディオ周波数の変更と、ステレオからモノラルへの切り替えに使用します。[Bitrate] 設定は、1 秒間にキャプチャされるオーディオ/ビデオのデータ量に関連します。いずれか片方または両方を小さくすると、再生画像の品質が低下します。

Flash エンコーダは、Flash 形式のオーディオ/ビデオ ファイルを作成します。Flash ファイル (.flv) には、固有の名前を入力できます。

設定を入力後、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、変更内容を保存します。



警告

[Submit] をクリックせずに、別の Web ページに移動すると、変更内容が失われます。

MPEG-4 エンコーダの設定

Cisco Digital Media Encoder 1100 ソフトウェアの MPEG-4 圧縮エンジンは、H.263、MPEG-4 Part 2 SP/ASP、および H.264/MPEG-4 Part 10 Baseline のエンコード機能を装備しています。この製品は、インターネット ビデオ、携帯電話、セット トップ ボックス用のストリームをエンコードするとともに、iPod® など、他の MPEG-4 互換のデバイス用のメディア ファイルを作成する機能を備えています。

Niagara SCX Web Interface は、エンコーダで利用可能な MPEG-4 のビデオ/オーディオ オプションを設定するための、基本的な設定と高度な設定の 2 種類のオプションが用意されています。

次の図は、*Niagara SCX Web Interface* でエンコーダ作成後に表示される画面を示します。

The screenshot shows the configuration interface for the MPEG-4 encoder. It includes sections for video and audio settings, streaming properties, advanced streaming settings, file saving options, and portable media settings. The interface is organized into a grid-like layout with various input fields and checkboxes.

[Advanced MPEG Video Settings] では、出力で求められる MPEG タイプを [MPEG Type] で選択することができます。これらの [MPEG Types] には、次のオプションがあります。

- **H.264-MP4** : H.264、MPEG-4、Part 10、または AVC (Advanced Video Coding) は、旧バージョンである H.263 より高い品質を維持しながら、非常に高いデータ圧縮率を実現するよう設計されています。また、低ビットレートから高ビットレートまで、携帯電話などの低解像度から放送などの高解像度まで、広範な用途に対応します。エンコーダの H.264 は、ベースラインプロファイルです。

- **H.264-3G2** : 3G2 コンテナに格納された H.264 ストリームを作成します。
- **H.264-3GP** : 3GPP コンテナに格納された H.264 ストリームを作成します。
- **MPEG4-MP4** : MPEG-4、Part 2、または H.263 は、ネットワーク帯域幅やデバイス サイズなど、特定の用途の他の条件から、低ビット レートと低解像度が必須である状況に対応するように設計されています。H.263 のビデオ用途の例としては、携帯電話、一部のローエンド ビデオ会議システム、監視システムがあります。H.263 は、H.264 をサポートしないレガシー ハンドヘルド デバイスにとって重要です。



(注) デフォルトでエンコーダの H.263 は、[Enable B Frames] オプションを選択しない限り、シンプル プロファイルが使用されます。B フレームをイネーブルにすると、アドバンスド シンプル プロファイルでストリームが生成されます。

- **MPEG4-3G2** : 3G2 コンテナに格納された H.263 ストリームを作成します。
- **MPEG4-3GP** : 3GP は、3GPP (Third Generation Partnership Project) が 3G 携帯電話用に定義したマルチメディア コンテナ形式です。これには、MPEG-4 や H.264 などのビデオ ストリームと、AMR や AAC などのオーディオ ストリームが格納されます。この設定を使用すると、3GPP コンテナに格納された H.263 ストリームが作成されます。この形式には、2 つの標準が定義されています。
 - 3GPP : GSM 方式の携帯電話用
 - 3GPP2 : CDMA 方式の携帯電話用
- **H263-MP4** : MPEG-4、Part 2、または H.263 は、ネットワーク帯域幅やデバイス サイズなど、特定の用途の他の条件から、低ビット レートと低解像度が必須である状況に対応するように設計されています。H.263 のビデオ用途の例としては、携帯電話、一部のローエンド ビデオ会議システム、監視システムがあります。H.263 は、H.264 をサポートしないレガシー ハンドヘルド デバイスにとって重要です。



(注) デフォルトでエンコーダの H.263 は、[Enable B Frames] オプションを選択しない限り、シンプル プロファイルが使用されます。B フレームをイネーブルにすると、アドバンスド シンプル プロファイルでストリームが生成されます。

- **H263-3G2** : 3G2 コンテナに格納された H.263 ストリームを作成します。
- **H263-3GP** : 3GPP コンテナに格納された H.263 ストリームを作成します。



(注) [Advanced MPEG Video Settings] の下には、[Encoder Quality] のドロップダウン ボックスがあり、[Real-time] から [Highest] まで選択できます。また [Frame Rate] や [Bitrate (kbps)] も設定できます。[Encoder Quality] 設定は、現在アクティブではなく、エンコード ストリームの結果やファイルに影響を及ぼしません。



(注) Quicktime® プレーヤーなど、一部のプレーヤーは、B フレームを含むストリームと互換性がありません。生成されたストリームの再生時に、品質に問題がある場合は、B フレームをオフにしてみてください。これにより、ほとんどのプレーヤーとの互換性が確保できます。

[Advanced MPEG Video Settings] では、複数の [Audio Formats]、[Audio Types]、[Audio Encoders]、[Bitrates] から選択することができます。これらの項目には、オーディオ サンプリングに関するオプションや、オーディオをモノラルとステレオのいずれでエンコードするかを選択に関するオプションが用意されています。

Advanced MPEG Audio Settings

Audio Format: 44.100 kHz, 16 bit, Stereo

Audio Type: Low Complexity

Audio Encoder: AAC

Bitrate: 8

Advanced MPEG Audio Settings

Audio Format: 44.100 kHz, 16 bit, Stereo

Audio Type: 11.025 kHz, 8 bit, Mono
11.025 kHz, 8 bit, Stereo

Audio Encoder: 11.025 kHz, 16 bit, Mono
11.025 kHz, 16 bit, Stereo

Bitrate: 22.050 kHz, 8 bit, Mono
22.050 kHz, 8 bit, Stereo
22.050 kHz, 16 bit, Mono
22.050 kHz, 16 bit, Stereo
33.075 kHz, 8 bit, Mono
33.075 kHz, 8 bit, Stereo
33.075 kHz, 16 bit, Mono
33.075 kHz, 16 bit, Stereo
44.100 kHz, 8 bit, Mono
44.100 kHz, 8 bit, Stereo
44.100 kHz, 16 bit, Mono
44.100 kHz, 16 bit, Stereo
16.000 kHz, 8 bit, Mono
16.000 kHz, 16 bit, Mono
48.000 kHz, 8 bit, Mono
48.000 kHz, 8 bit, Stereo
48.000 kHz, 16 bit, Mono
48.000 kHz, 16 bit, Stereo

[Auto Type] 設定は、AAC エンコーディングだけに関連します。[Audio Encoder] フィールドで [AMR] を選択した場合、この設定は使用しません。[Audio Type] フィールドのドロップダウン ボックスには、次の 2 つのオプションがあります。

- [Main] : この形式は、[Low Complexity] と同じですが、後方予測機能が追加されています。
- [Low Complexity (LC)] : シンプルで最も広く使用されており、AAC オーディオ形式をサポートします。



(注)

生成されるストリームの音声をどのプレーヤーで再生するかによって、いずれのオプションも、それぞれ特定のツールセットを使用して、オーディオ ストリームをエンコードします。選択にあたっては、再生ソフトウェアやデバイスの要件に基づく必要があります。最も広くサポートされている形式は、LC プロファイルです。

[Audio Encoder] 設定のドロップダウン ボックスでは、次の 3 つの項目から選択できます。

- [AAC (Advanced Audio Coding)] : デジタル オーディオ向けの標準化された、劣化の多い圧縮およびエンコード方式です。AAC は MP3 よりも高品質のオーディオを実現し、MPEG (Motion Picture Experts Group) から標準として指定されています。
- [AMR-NB (Adaptive Multi-Rate Narrow-Band – 8 kHz)] : 音声コーディングに最適化されたオーディオ データ圧縮方式です。AMR は、3GPP によって標準のナローバンド音声コーデックに採用され、GSM で広く使用されています。

- [AMR-WB (Adaptive Multi-Rate Wide-Band – 16 kHz)] : 音声コーディングに最適化されたオーディオデータ圧縮方式です。AMR は、3GPP によって標準のワイドバンド音声コーデックに採用され、GSM で広く使用されています。



(注) オーディオに対して [AMR Encoder] を選択すると、携帯電話での再生に適した 8 kHz モノラルを自動的に使用して、音声コーディングされます。

[Audio Bitrate] ドロップダウン ボックスには、8 ~ 320 まで、いくつかのオプションが用意されています。

エンコーダの Web インターフェイスには、[Streaming Properties] と [Advanced Streaming Properties] のためのオプションがあります。選択するブロードキャストタイプについては、[Enable Streaming] ボックスをオンにするというオプションもあります。プルのイネーブルの詳細については、「Real エンコーダのプロパティ (Helix)」(P.2-21) を参照してください。その他のオプションとして、[Stream to a File] や [Portable Media] の機能を選択することもできます。



(注) ライブ ストリーミングとファイルへのストリーミングは、同時に実行できません。同時にオンにできるのは、いずれか 1 つだけです。ライブ ストリーミングとファイルへのストリーミングを同時に実行するには、別のプロファイルを設定する必要があります。

ファイルへのストリーミングを行うには、このファイルの固有名と場所の入力が必要です。エンコードされたコンテンツをファイルに保存する場合は、[Portable Media] ボックスをオンにします。表示されるフィールドに、ファイルの保存先を入力します。



(注) このファイル名は、エンコーダ システムを基準とするのではなく、SCX Explorer を実行するシステムを基準とすることに注意してください。

SCX Manager と SCX Explorer が同じコンピュータ上にない場合、ファイルのブラウザを常に [マイ ネットワーク] で開始し、そこからの相対パスを入力するか、システム名からフルパス名を入力します (例: \\fileserversc\videos)。ファイル名だけを入力した場合、メディア ファイルがリモート コンピュータにあるにもかかわらず、誤ってローカル コンピュータをブラウズすることがあります。

MPEG-4 コンテンツをストリーミングするには、[Enable Streaming] を選択します。適切なストリーミング プロファイルを設定します。



(注)

デフォルト設定を使用すると、マルチキャストストリーミングがイネーブルになります。これを使用しない場合は、グループの IP アドレスを、エンコーダからストリーミングするサーバの IP アドレスに変更します。

保存する SDP ファイルを指定する [SDP File] フィールドには、ストリームの開始時に作成される SDP ファイルの名前と保存先のパスが必要です。Helix[®]、Quicktime、または Darwin サーバにストリーミングする場合は、個別のストリーミングサーバ固有の設定の詳細について、それぞれのドキュメントまたはオンラインメッセージボードを参照してください。



(注)

保存する SDP ファイルに対して共有の保存先ディレクトリを選択することで、ポイントツーポイントのストリーミングが可能になります。必ずストリーミング先の PC の IP アドレスを入力して、マルチキャストをディセーブルにしてください。

たとえば、別の PC でストリーミングを表示する場合、SDP ファイルをローカルドライブの共有フォルダに保存します。これにより、他の PC で SDP ファイルを開き、ストリームを Quicktime やその他の MPEG-4 互換のストリーミングプレーヤーで再生できます。MPEG-4 エンコーディングは、CPU 負荷が大きいため、非常に高性能のシステム（ダブルコアプロセッサ以上）でない限り、同じシステムでストリームを表示することはお勧めできません。これを実行すると CPU に過大な負荷がかかり、品質劣化やエンコードセッションの障害が発生することがあります。

設定を入力した後、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして設定を保存します。



警告

[Submit] をクリックせずに、別の Web ページに移動すると、変更内容が失われます。

Real エンコーダの設定 (Helix)

Real (Helix) は、ストレージ形式とストリーミング形式の両方を兼ねています。Real エンコーダは、ファイルに出力する機能に加えて、Helix Server へのストリーミングが可能です。Real エンコーダの設定によって、サーバへの接続とストリーミングのためのパラメータを調整できます。

The screenshot displays the configuration interface for a video encoder, divided into two main sections: **Streaming Properties** and **Advanced Streaming Settings**.

Streaming Properties

- Real Streaming properties**
 - Enable Streaming
 - Broadcast Method: Legacy Push (ver 8.x, 7.x, G2)
 - Transport: UDP TCP
 - Server Address: [text input]
 - Port/Port Range: 4040
 - Multicast Address: [text input]
 - Listen Address: Automatic
 - Stream Name: [text input]
 - Path(optional): [text input]
 - User Name: [text input]
 - Password: [text input]
 - Frame Rate: 15
 - Video Quality: Normal Motion Video
 - Audio Content: Voice Only
 - Video Noise Filter: Off
 - De-Interlace filter
 - Inverse Telecine
- Streaming to a File**
 - Save to file
 - File Name: default folder
 - D:\AVFiles\capture.rm

Advanced Streaming Settings

- Audience Selection**
 - 128k Dual ISDN
 - 12k Substream for 28k Dial-up
 - 150k LAN
 - 16k Substream for 28k Dial-up
 - 1M Download (VBR)
 - 1M Multichannel (VBR)
 - 56k Dial-up
 - 5M Download (VBR)
 - 5M Multichannel (VBR)
 - 5M Surround Stereo (VBR)
 - 64k Single ISDN
 - 750k Download (VBR)
- SimulStream**
 - Enable SimulStream
 - Enable multiple instances for each filter
 - Show 5 filters per device.
- Deinterlace**
 - Type: Motion Adaptive
- Motion Threshold**
 - Smooth Sharp
 - Value: 16

Buttons at the bottom include [All Encoders](#), [Delete Encoder](#), , and [Top](#).

[Broadcast Method] : Real 形式のビデオを Helix Server にストリーミングするために、次のような複数の異なるブロードキャスト タイプがあります。

- [Push, Account-Based Login (Helix Server)] : アカウントベースのプッシュ ブロードキャストを使用すると、ストリームを Helix Server バージョン 9 以降に送信できます。この方式では、エンコーダが Helix Server へのモニタリング接続を維持します。この接続では、エンコーダからサーバへ、アクセス認証のためのユーザ名とパスワードが渡されます。また Helix Server は、この接続を使用して、ブロードキャスト ストリームに関する統計情報をエンコーダに送信します。
- [Push, Password-Only Login (Helix Server)] : アカウントベースのブロードキャストと異なり、パスワードだけのブロードキャストは、モニタリング接続を確立しません。したがって、このタイプのブロードキャストでは、必要なネットワークオーバーヘッドが小さくなりますが、Helix Server からのフィードバックは受け取れません。このブロードキャスト方式では、ライブ ストリームを Helix Server バージョン 9 以降に送信できます。しかし、スプリットによって、サーバをレシーバーとして設定する必要があります。詳細については、Helix Server のドキュメントを参照してください。
- [Push, Multicast (Helix Server)] : マルチキャストでは、発信帯域幅を増加させることなく、エンコーダから任意の数の Helix Server に、同一のブロードキャスト ストリームを配信できます。Helix Server は、エンコーダからのマルチキャスト用にあらかじめ設定する必要があります。詳細については、Helix Server のドキュメントを参照してください。
- [Pull (Helix Server)] : プル ブロードキャストでは、エンコーダは、エンコードの開始と同時に、ブロードキャスト パケットの生成を開始します。ただし、最初の RealPlayer® ユーザがブロードキャストを要求し、それによって Helix Server のストリーム要求が発生するまで、ブロードキャスト ストリームは配信されません。それにより、プル ブロードキャストでは、ブロードキャストの視聴者が存在しない場合に、エンコーダと Helix Server の帯域幅が節減できます。このブロードキャスト方式では、ストリームを Helix Server バージョン 9 以降に送信できます。

- **[Legacy Push (8.x, 7.x, G2)]** : レガシー プッシュ方式は、アカウントベースのプッシュ方式と似ています。ただし、レガシー プッシュでは、サーバのフィードバックと統計情報を提供するためのモニタリング接続を使用しません。また、アカウントベースのプッシュほど堅牢なブロードキャスト方式ではありません。このブロードキャスト方式は、RealSystem Server G2、7、または 8 など、Helix Server バージョン 9 よりも前のサーバに、ブロードキャスト ストリームを送信する場合だけ使用します。

[Transport] : プッシュ ブロードキャスト方式を使用する場合、Helix Server にブロードキャスト ストリームを配信する際に UDP と TCP のいずれのトランスポート プロトコルを使用するかを指定します。UDP は、ネットワーク オーバーヘッドが小さく、推奨されるプロトコルです。しかし、ネットワーク 損失の多い環境でブロードキャストを配信する場合は、TCP を使用の方が適切な場合もあります。

[Server Address] フィールドには、ブロードキャストに使用する Helix Server の IP アドレスまたは DNS 名を、207.188.7.176 または helixserver.example.com のように入力します。

[Port/Port Range] フィールドには、Helix Server のデフォルト HTTP ポートを指定します。デフォルト値は 80 です。これは、サーバのデフォルトの HTTP ポートです。マルチキャストの場合、ブロードキャスト パケットの送信先である Helix Server レシーバーのポート範囲を指定します。実際に使用するポートについては、ブロードキャストの開始時に、エンコーダと Helix Server がネゴシエートします。デフォルトの範囲は 30001 ~ 30020 です。

マルチキャスト アドレスを使用する場合、**[Multicast Address]** フィールドに、ブロードキャスト ストリームのマルチキャスト アドレスを入力します。マルチキャスト アドレスの範囲は、224.0.0.0 ~ 239.255.255.255 で指定する必要があります。

[Listen Address] フィールドは、Helix Producer が、サーバからの再送信要求をリッスンするマシンの IP アドレスです。

リッスン アドレスによって、Helix Mobile Producer Live が、Helix Server からのパケット再送信要求をリッスンする IP アドレスが設定されます。リッスン アドレスには、次の値のいずれかを使用できます。

- **[Automatic]** : 最も安全な設定であり、ほとんどのファイアウォール設定で使用可能
- **[System IP]** : マシンの IP アドレス
- **[System IP 2]** : マシンの 2 番目の IP が、マルチホーム
- ユーザが入力する IP アドレス

Helix Mobile Producer Live マシンに複数の IP アドレスがある場合、Helix Mobile Producer Live が Helix Server からの通信に使用する IP アドレスを入力します。NAT (network address translation) を実行するファイアウォール経由でブロードキャストを行う場合は、リッスン アドレスをファイアウォールの IP アドレスまたは値 0.0.0.0 に設定します。0.0.0.0 に設定すると、Helix Server が、任意の IP アドレスからの Helix Mobile Producer Live 接続を許可します。ただし、接続には有効なパスワードが必要です。

[Stream Name] フィールドに、ブロードキャスト ストリーム名を入力します。この名前はクリップ名と似ており、適切な拡張子 (固定ビット レート ストリームの場合は .rm、可変ビット レート ストリームの場合は .rmvb) を使用する必要があります。指定したストリーム名は、ブロードキャスト URL に表示されます。

[Path (optional)] フィールドには、Helix Server でのアーカイブまたはスプリットに使用する仮想パスを指定します。「news/」のように、単純な名前の後にスラッシュを付けます。

[User Name] フィールドと **[Password]** フィールドには、各 Helix Server のレシーバー定義にあるユーザ名とパスワードを入力します。この値が間違っていると、ブロードキャスト接続に失敗します。

[Frame Rate]、つまりフレーム周波数は、イメージング デバイスがフレームと呼ばれる固有の連続イメージを生成する周波数の尺度です。この用語は、コンピュータ グラフィックス、ビデオカメラ、フィルム カメラ、モーション キャプチャ システムでも同様に使用されます。フレーム レートは、通常、fps (フレーム/秒) または単に Hz で表現されます。

次の一連のフィールドでは、Real エンコーダのフィルタをアクティブ化して、ビデオとオーディオの品質を向上させます。これらのフィルタ設定は、ストリーミングするコンテンツと主観的な好みに依存します。これらの設定を試験的に使用してみて、テスト キャプチャでその結果を確認することをお勧めします。

Cisco Digital Media Encoder 1100 には、順次走査変換および逆テレシネ フィルタが組み込まれ、必要に応じて自動的に適用されます。これにより、エンコーダの実行効率が最大化されます。Real エンコーダの順次走査変換および逆テレシネ フィルタは、使用しないことをお勧めします。フィルタを複数回適用すると、好ましくない結果が発生したり、余分のシステム リソースを消費したりする可能性があります。

[Enable SureStream™] : SureStream では、複数の種類の視聴者向けにブロードキャスト ストリームをエンコードすることができます。ただし、選択する主要ストリームとサブストリームごとに、エンコード時のプロセッサ負荷が増加し、発信帯域幅の要件が増大します。たとえば、SureStream をイネーブルにすると、56k ダイアルアップの視聴者と 128k デュアル ISDN の使用者を選択できます。加えて、SureStream をイネーブルにすると、エンコードに 2 倍のプロセッサ パワーが必要になることがあります。

SureStream をイネーブルにするかどうかに関係なく、ストリームに対して [Audience Selection] を少なくとも 1 つ選択する必要があります。

また、ストリーミングと同時にファイル出力することも、ファイル出力だけを行うことも可能です。ファイルの固有の名前を入力します。



(注)

現在のファイルと同じ名前を使用すると、現在のファイルが上書きされます。

設定を入力後、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、変更内容を保存します。



警告

[Submit] をクリックせずに、別の Web ページに移動すると、変更内容が失われます。

Windows Media エンコーダの設定

Windows Media は、ストレージ形式とストリーミング形式の両方を兼ねています。Windows Media エンコーダは、ファイルに出力する機能に加えて、Windows Media Server へのストリーミングが可能です。Windows Media エンコーダの設定によって、サーバへの接続とストリーミングのためのパラメータを設定できます。



まずドロップダウンメニューから [Windows Media Capture Profile] を選択します。



(注)

Windows Media のキャプチャ プロファイルの中には、ビデオ解像度と入力選択が事前に設定されているプロファイルもあります。Windows Media のキャプチャ プロファイルを選択する場合は、現在のビデオ/オーディオ設定が変更されていないことを確認します。変更されている場合は、これらの設定を元に戻し、[Submit] ボタンをクリックします。

オーディオとビデオのストリーミングには、次の 2 つの配信方式があります。

- **プル** : この方式を使用すると、エンコードの開始と同時に、ブロードキャストパケットの生成が開始します。ただし、Windows Media Server がストリームを要求するまで、ブロードキャストストリームは配信されません。この方式では、サーバへのセキュアな接続は提供されないため、エンコーダとサーバが同じネットワークファイアウォール内に存在する場合に限って使用する必要があります。
- **プッシュ** : この方式では、エンコーダが Windows Media Server へのセキュアな接続を維持します。この接続では、エンコーダからサーバへ、アクセス認証のためのユーザ名とパスワードが渡されます。

クライアントが Cisco Digital Media Encoder 1100 からストリームをプルできるようにするには、セッションを設定し、エンコーダから直接ブロードキャストを開始する必要があります。クライアント (Windows Media サーバまたはプレーヤー) は、次の URL 形式を使用して、随時ストリームに接続できます。

- `http://IP_address:port` (インターネット接続の場合)
- `http://encoding_computer_name:port` (LAN 接続の場合)

デフォルトで、エンコーダはブロードキャスト時に、最大 50 の直接接続をサポートします。



(注)

エンコーダへの直接接続が増えると、必要なシステムリソースが増大します。プレーヤーから直接 Cisco Digital Media Encoder 1100 に接続することはお勧めできません。ストリーミング サーバをエンコーダに接続したうえで、プレーヤーをそのサーバに接続する必要があります。

[Enable Pull] チェックボックスをオンにします。次に、サーバがエンコーダからストリームをプルするために使用するポート番号を入力します。

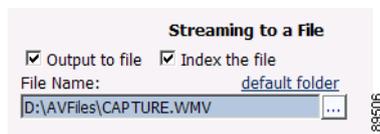


(注)

入力するポート番号が、すでに他のエンコーダによって使用されていないことを確認してください。2 つのエンコーダが同じポート番号を使用しようとすると、片方または両方のエンコーダが開始しなくなります。

[Enable Push] を選択し、他のエンコーダに割り当てられてないポート番号を入力します。次に、サーバ名または IP アドレス、エイリアス (オプション)、ユーザ名、およびパスワードを入力します。

また、サーバへのストリームと同時に、ファイルに出力することもできます。ただし、サーバがファイルのアーカイブとストリーミングを行うように設定することで、エンコーダがそのシステムリソースをエンコードに振り向けることができます。詳細については、Windows Media Server のドキュメントを参照してください。



[Index the file] をオンにすると、視聴者は Windows Media player を使用して、Windows Media[®] ファイル内の任意の箇所に直接アクセスできます。Microsoft Windows Media Utilities を使用して Windows Media ファイルを使用する場合も、インデクシングが必要です。

設定を入力後、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、変更内容を保存します。



警告

[Submit] をクリックせずに、別の Web ページに移動すると、変更内容が失われます。

Niagara SCX Web Interface に、[All Encoders] リストが表示されます。



エンコーダ プロファイルの削除

エンコーダから、エンコーダ プロファイルを削除することもできます。すべてのエンコーダ プロファイルは、アクティブ状態かアイドル状態かに関係なくアクティブ メモリを使用するので、使用する予定のないエンコーダを削除することには意味があります。

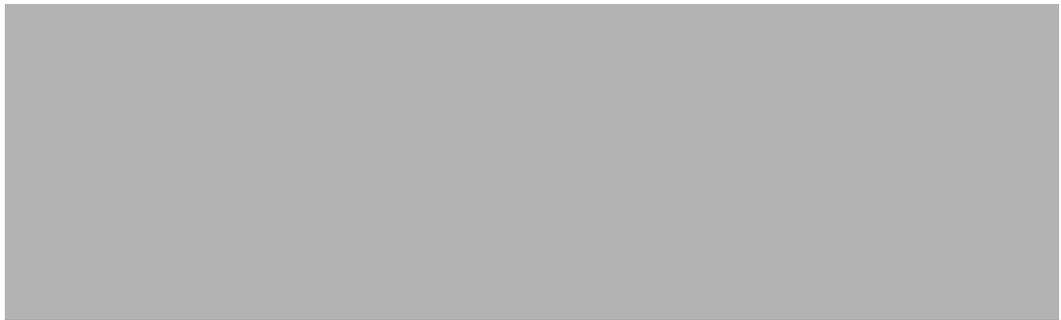


(注) カスタム プロファイルは、いったん削除すると、復元できません。最初から再作成する必要があります。



(注) デフォルトのエンコーダ プロファイルを削除した場合は、[Restore Encoder Factory Defaults] の機能を使用して復元できます。[Restore Encoder Factory Defaults] を実行すると、それまでに作成したすべてのカスタム エンコーダ プロファイルが削除され、デフォルトのエンコーダ プロファイルだけがロードされます。

エンコーダ プロファイルを削除するには、*Niagara SCX Web Interface* で [All Encoders] リストにアクセスする必要があります。



エンコーダを削除するには、削除するエンコーダの横にある [Del] リンクをクリックします。

上の手順の代わりに、[Edit] リンクをクリックしてエンコーダのプロファイルを表示し、削除対象のエンコーダかどうかを確認することもできます。

削除対象のエンコーダであることが確認できたら、ページ下部にある [Delete Encoder] リンクをクリックします。



My Cisco Digital Media Encoder 1100

[My Encoder] ページには、ソフトウェア バージョン、ネットワーク名、シリアル番号、およびハードドライブ構成の詳細が表示されます。このページのデータのほとんどは情報を表示するだけで、変更はできません。ただし、次のフィールドは変更が可能です。

- [Computer Name]
- [Admin password]

Machine Properties

Computer Name: GP074802 [Click to change name](#)

Windows Version: 5.1.2600.131072
Service Pack: Service Pack 2
[Reboot Now](#)

GoStream Properties:
User Name: admin
Serial Number: GP074802

Fixed Hard Drive:
C:\ 683.00 MB free out of 2,051.00 MB
D:\ 33,214.00 MB free out of 33,792.00 MB
E:\ 18.00 MB free out of 195.00 MB
F:\ 651.00 MB free out of 2,098.00 MB

Memory: 94.00 MB bytes free out of 502.00 MB

Software Versions: Web 5.2.187.0
SKU#: 92-00325-01

- VCST.Scx.Common.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.Scx.EncodersLib.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.Utility.Diagnostics.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.Utility.SystemInfo.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.Scx.GoStream.Data.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.UtilityLib.dll Version: 5.2.187.0

Software Update History - None

Note: Changing the computer name will require the system to be rebooted after submitted.

[Computer Name]

[Computer Name] フィールドには、エンコーダの現在のネットワーク名が指定されています。これは、ブラウザから *Niagara SCX Web Interface* にアクセスする際に入力するのと同じ名前です。このフィールドの横にある [Click to change name] リンクをクリックして、コンピュータ名を変更できます。

Computer Name: GP074802 [Click to change name](#)

Windows Version: 5.1.2600.131072
Service Pack: Service Pack 2
[Reboot Now](#)

画面がリフレッシュされ、[Computer Name] フィールドが、編集可能なテキスト フィールドになります。エンコーダの新しい名前を入力します。

次に、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックします。

ページがリフレッシュされ、エンコーダの再起動を求めるメッセージが表示されます。変更は、再起動するまで有効になりません。

[Reboot Now] リンクをクリックし、システムを再起動して、コンピュータ名の変更内容を適用します。

Machine Properties
Update successful.

Computer Name: GP074802

Windows Version: 5.1.2600.131072
Service Pack: Service Pack 2
[Reboot Now](#)

エンコーダの再起動時に、Web インターフェイスに次のメッセージが表示されます。

The Web service is currently not available. Please wait for the service to be restarted and returned to normal service.
This page will automatically refresh.

In Progress... **System Reboot**

Tuesday, December 04, 2007 4:55:08 PM

189511



(注) 再起動プロセスが完了するまで、約 2 分かかります。

エンコーダが再起動すると、ログイン画面が再度表示されます。



(注) ブラウザを終了し、後で *Niagara SCX Web Interface* にログインする場合、エンコーダへのアクセス用に作成した新しいコンピュータ名が必要になります。

Cisco Digital Media Encoder 1100 のプロパティ

エンコーダの [Properties] セクションには、[User Name] と [Serial Number] の 2 つのフィールドがあります。変更できるのは、[User Name] フィールドだけです。これを変更すると、工場出荷時のユーザパスワードが変更されます。

- 「工場出荷時のデフォルトのログインパスワードの変更」(P.2-39)
- 「工場出荷時のデフォルトのログインパスワードの復元」(P.2-40)

工場出荷時のデフォルトのログインパスワードの変更

[User Name] フィールドで [admin] リンクをクリックします。*Niagara SCX Web Interface* のログインパスワードを変更するための新しい画面が表示されます。

GoStream Properties:
User Name: [admin](#)
Serial Number: GP074802

189512



(注) *Niagara SCX Web Interface* のユーザ名は変更できません。

[Password] フィールドに現在のパスワードを入力し、[New Password] と [Confirm New Password] の両方に、新しいパスワードを入力します。



(注)

Niagara SCX Web Interface のパスワードは、大文字小文字が区別されます。

次に、[Change Password] ボタンをクリックします。次の結果が表示されます。



(注)

新しいパスワードを使用して、再度 Web インターフェイスにログインする必要があります。

工場出荷時のデフォルトのログインパスワードの復元

パスワードを忘れた、または失った場合、[Restore Factory Defaults] オプションを実行して、デフォルトのパスワードを復元できます。詳細については、「[工場出荷時のデフォルトの復元](#)」(P.2-46) を参照してください。

Cisco Digital Media Encoder 1100 のアラート

次の図は、ストリーミングやその他の操作中に発生したアプリケーション アラートを、エンコーダがどのように処理するかを制御するページを示します。Cisco Digital Media Encoder 1100 には、複数の受信者に電子メールを送信したり、エンコーダの前面パネルのアラームライトを点灯したりするオプションもあります。

Alerts

This page allows you to control how GoStream handles application alerts that may occur during streaming or normal operations. GoStream can optionally send a single email or close a hardware contact on the dual dock for each condition selected below.
Warning!!! Email Configuration is incomplete. Click to see the GoStream [Email address](#).

GoStream Alerts | records : 9

	Send Email	Light Alarm	Close Contact	Displayed Text	Description
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Exception	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Encoder Error	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Undefined	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Encoder Started	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Encoder Stopped	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	SCX Service Stopped	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	SCX Service Started	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Warning	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	High Temperature!	

189515

電子メール アラート

オプションとして、アプリケーション アラームが発生した場合に、特定の電子メールアドレスに電子メール アラートを送信することができます。[Send Email] をオンにすると、この機能がイネーブルになります。アラートの送信先の電子メールアドレスと、電子メール サーバのユーザ名、パスワード、およびサーバ名を指定する必要があります。Cisco Digital Media Encoder 1100 で電子メール アラートの送信を設定する方法については、「システム設定」(P.2-45) を参照してください。

アラーム ライト

[Light Alarm] ボックスをオンにすると、エンコーダの前面パネルのアラーム ライトが点灯します。

アラート設定の編集

リストのアラート設定を編集するには、変更するアラートの行にある [Edit] リンクをクリックします。アラート設定の変更が完了したら、[Update] リンクをクリックすると、設定内容が入力され、エンコーダの [Alerts] リストに戻ります。

アラートの表示

エンコーダの [Alerts] ページに定義されているすべてのアラートは、発生すると [View Alerts] ページのログに記録されます。ユーザが、エンコーダの前面パネルで、<ヘルプ> ボタン (<i> ボタン) を使用してアラートをクリアすると、[View Alerts] ログ ページからアラートが削除されます。

別の方法として、Cisco Digital Media Encoder 1100 システムは、前面パネルのアラーム インジケータ ライトが赤く点灯したときに、アラートを通知することができます。この場合、アラートの内容を確認するには、<ヘルプ> ボタン (<i> ボタン) を押して、発生したアラートが順に切り替わる画面を表示する必要があります。

詳細については、「<ヘルプ> ボタン (<i> ボタン)、Niagara SCX Web Interface、およびそれらのアラート設定」(P.3-55) を参照してください。

ネットワークのプロパティ

[Network Properties] ページには、NIC (ネットワーク インターフェイス カード) についての、エンコーダの現在のネットワーク設定に関する詳細情報が表示されます。次の例では、Cisco Digital Media Encoder 1100 システムが Windows® サーバ上で実行されているので、[Primary WINS Server] と [Secondary WINS Server] に関する [Advanced Settings] が表示されます。

Home Encoders Configuration Status Log Out

(TCP/IP) Network Properties

Network Card(s) Primary NIC
 Description: Intel(R) 82566MM Gigabit Network Connection

Obtain an IP address automatically
 Use the following IP information

IP Address: 172.16.1.121
 Subnet Mask: 255.255.255.0
 Default Gateway: 172.16.1.251
 Preferred DNS Server: 172.16.1.3
 Alternate DNS Server: 172.16.2.3

Advanced Settings on GS082501
 MAC Address: 00:D0:C9:AB:C6:AC
 Primary WINS Server: 172.16.1.4
 Secondary WINS Server: 0.0.0.0
 Active Network Link:

Submit Reset

© 2008 ViewCast Corporation. All Rights Reserved. 189518

Cisco Digital Media Encoder 1100 が Windows サーバ上で実行されていない場合は、次のスクリーンショット、またはこれに類似のスクリーンショットが表示されます。

Home Encoders > Configuration > Status > Log Out

(TCP/IP) Network Properties

Network Card(s) Primary NIC
Description: Intel(R) 82566MM Gigabit Network Connection

Obtain an IP address automatically
 Use the following IP information

IP Address: 172.16.1.121
Subnet Mask: 255.255.255.0
Default Gateway: 172.16.1.251
Preferred DNS Server: 172.16.1.3
Alternate DNS Server: 172.16.2.3

Advanced Settings on GS082501
MAC Address: 00:D0:C9:AB:C6:AC
Primary WINS Server: 0.0.0.0
Secondary WINS Server: 0.0.0.0
Active Network Link:

Submit Reset

189520

次のスクリーンショットが表示された場合、エンコーダ システムからサーバにイーサネット ケーブルが接続されていません。「Verify the network cable to enable network setting updates!」というメッセージと、画面下部の切断を示すアイコンに注意してください。

ネットワーク カード

Cisco Digital Media Encoder 1100 には、プライマリ接続とセカンダリ接続の 2 種類のネットワーク接続があります。それぞれのカードの現在のプロパティを表示するには、[Network Card(s)] フィールドのドロップダウンメニューで、表示するカードを選択します。

詳細設定（ネットワーク）

詳細設定には、エンコーダのネットワーク名、MAC アドレス、およびサーバの IP アドレス設定があります。



エンコーダ ネットワーク名はリンクです。このリンクをクリックすると、[My Encoder] ページが表示されます。このページから、エンコーダのネットワーク名を変更することができます。詳細については、「[Computer Name]」(P.2-38) を参照してください。

[Active Network Link] フィールドは、選択したネットワーク インターフェイス カードにネットワークが接続されているかを、2つのアイコンによって示します。

表 2-2 ネットワーク リンク アイコンと説明

アイコン	説明
	ネットワーク リンクが検出されました。
	ネットワーク リンクが検出できません。

システム設定

[System Configuration Settings] ページでは、エンコーダのデフォルトのシステム設定を変更できます。電子メールの設定を行っておくと、エンコーダでアラート状態が発生した場合に、Cisco Digital Media Encoder 1100 から事前定義の電子メール アドレス宛てに電子メールを送信できます。また、システムのアイドル時に、エンコーダの前面パネルに表示される情報をカスタマイズすることも可能です。

このページはまた、エンコーダで工場出荷時のディスクイメージを復元し、すべての設定を元の状態に戻すこともできます。[Restore Factory Defaults] オプションを使用すると、すべてのカスタム設定が削除され、約 10 分で処理が完了します。

[Home](#) [Encoders](#) > [Configuration](#) > [Status](#) > [Log Out](#)

This page allows you to modify your GoStream default system settings.

Enter a valid email settings to have GoStream send emails for [alert conditions](#). Optionally select the information to show on the GoStream display when GoStream is idle. You can customize the idle screen text or use the default settings. [Restore GoStream Factory Defaults](#)

System Configuration Settings

Email Settings:

Send Emails To:

Email From:

Subject:

SMTP (Mail) Settings:

User Name:

Password:

SMTP Host: [Save and Send Test Email](#)

Idle Screen Information:

Cycle this information in the display when GoStream is idle.

Active IP Computer Name CPU

Memory Hard Drive Temperature

Idle screen text:
Note: Each line in the display is 20 characters.

Line 1

Line 2

Line 3

Line 4

***Default AV Folder:**

High Temperature Alert: degrees Celsius. (view [Alert Configuration](#))

189524

工場出荷時のデフォルトの復元

[Restore Factory Defaults] をクリックして、プロセスを開始します。



次の画面に、実行しようとしているプロセスの詳細が表示されます。この画面で、プロセスをキャンセルすることもできます。



(注)

[Restore Factory Defaults] を実行すると、エンコーダのプライマリ ディスク ドライブ (C:) に元のシステム イメージがリビルドされます。C: ドライブに保存されたすべてのカスタム設定およびファイルは、削除されます。このプロセスは、元に戻すことができません。ただし、エンコーダの復元プロセスが完了した後、カスタム設定を手動で再入力することはできます。



(注)

オーディオ/ビデオ ファイルを保存するデフォルト ディレクトリは、D:¥AV Files¥ です。[Restore Factory Defaults] オプションを使用した場合に、元のイメージが再構築されるのは、ドライブ C: だけです。ドライブ D: のすべてのファイルとフォルダは、そのまま維持されます。個人用のファイルが削除されないよう、個人用のファイルの保存には、必ずデフォルトのディレクトリである D: ドライブを使用してください。

電子メールの設定

電子メールを送信するための SMTP 電子メール アカウントの設定について不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

[Email Settings] で、エンコーダの電子メール設定を指定するには、次の情報を入力する必要があります。

- 電子メールの送信先アドレス (複数の電子メール アドレスを設定する場合は、カンマで区切る)
- 電子メールの発信元である有効な電子メール アドレス
- 電子メール アラートの件名 (必須)
- SMTP (メール サーバ) 設定
 - サーバ アクセスのユーザ名

- パスワード (必要な場合)
- SMTP サーバ名



(注) セキュリティ保護のため、アカウントのパスワードはいったん入力して設定されると、その後は表示されません。ただし、[Submit] ボタンをクリックすると、このフィールドは空白になりますが、パスワード情報は保存されています。



(注) このダイアログ ボックスの情報を 1 つでも変更した場合、[Submit] ボタンをクリックする前に、SMTP パスワードを再入力する必要があります。再入力しなければ、前に設定したパスワードが、空白のエントリで上書きされます。

上の情報を入力し終わったら、[Submit] ボタンをクリックして、変更内容を保存します。

[Save and Send Test Email] リンクをクリックすれば、行った設定をテストすることができます。次に表示されるページには、電子メールの送信に成功したか、それとも送信エラーが発生したかが表示されます。

アイドル画面の情報

[Idle Screen Information] では、エンコーダの前面パネルの液晶ディスプレイに表示される情報を変更できます。

表示する情報のボックスをオンにします。この情報は、液晶ディスプレイがステータス情報とエンコーダ情報を交互に表示するにつれて、順に切り替わります。

液晶アイドル画面の上部には、デフォルトのメッセージである「System is Ready」が表示されます。このメッセージは、カスタマイズ可能です。

上の情報を入力し終わったら、[Submit] ボタンをクリックして、変更内容を保存します。

デフォルトのディレクトリ設定



(注) ドライブ D 以外にあるディレクトリに個人用のファイルを保存することの危険性を理解していない限り、デフォルトのディレクトリ設定を変更せずに使用することを強くお勧めします。エンコーダ上の他のドライブにファイルを保存すると、[Restore Factory Defaults] 機能を使用した場合に、これらのファイルが削除される可能性があります。



(注) 個人用のファイルを保存できるストレージは、エンコーダ上の D ドライブだけです。



(注) ドライブ C、E、および F を使用できるのは、エンコーダ運用プログラムだけです。これらのドライブを変更すると、システムが損傷し、保証が無効になることがあります。

[Default AV Folder] には、エンコーダ プロファイルで [Save to File] オプションを選択して作成される AV ファイルに対し、格納先のディレクトリを指定します。AV ファイルを作成するためのエンコーダ プロファイルの設定については、[AVI エンコーダのプロパティ](#)、[Flash エンコーダのプロパティ](#)、[MPEG-4 エンコーダのプロパティ](#)、[Real エンコーダのプロパティ \(Helix\)](#)、および [Windows Media エンコーダのプロパティ](#) の [Save to File] オプションを参照してください。

高温アラート

エンコーダが、事前に定義した最高温度レベルに達した場合のアラートをイネーブルにすることができます。レベルを設定するには、[High Temperature Alert] ドロップダウンメニューから選択します。

[Alert Configuration] リンクをクリックすると、[Alerts] ページが表示されます。アラートの設定の詳細については、「[Cisco Digital Media Encoder 1100 のアラート](#)」(P.2-41) を参照してください。